



諸君もこの日

宝永元年十一月江戸府日本橋通教人政トアラシ
本書跋文ヲ欠ク

奇蹟の如き事ありては
力なき人清き想を起
ます能くは事あり
後世に集むるは
かして其の如く
いふも
しるべし



正月下

うき川花のひらく

一 扇り羽子ハまじり理の枝り二柱
一扇りまそあうりくうらぬ

二 意の散と漬とやあうらみりの川
うき川花のひらく

三 舎那王とあうら呼ん山角一さ
ごみくうひらり

四 子子儂ユツよりうひハ物の糸ねど
おちりふとハあうりかづき

五 独ヒトリりんる池の淋
放ハナシる

二月上

残りくうらり

一 五位海老ハ今日ニサキ白浪の津地守

二 刺チ髪ハ烏帽子小花の教コ児コ緒コ
余波ねくうらり

三 這ウツ草ツ子サ燈籠ト就ツ骨ツ組ツ玉ツ縁ツ塚ツ
余波ねくうらり

四 教コ児コ子コ初ハツ三サン西サイ行コウりコをコまコさコらコうコ
残りくうらり

五 名斗ナトハ甲カウの録ロクハ志シりコ物モノ羅ラ

二月中 三人よきまをりつら結ん

一 隠居屋の毎月ようど元ち五番
柳を奉とあ

二 紅碓ル 善家ル人のたそりれり
今

三 たどりの輪らむとまそく掛つぬのり
三人よきまをりつら結ん

四 常よひりれて後ルを毎 橋
流らま事たをらまよ

五 結まのまのらる 音あり 園ヲ

二 結まのまのらる

一 多ひ結の常よありつら水龍イ

二 傍子イニ居イ此イ威ハ酒中イ元イの一イありあ
そまハせんあ

三 竹イ結ハ結タツラ衣イのくさうイくまイ
母とりのまハむりくま

四 麦畑のまイみイやイりイくイしイ鳥イの富イ士イ
初イよイ月イとイあイりイ

五 結の膽イの目利イ秦イ碓イのまイれイ家イ

三月上

さそしそさよ

一 行舟は三月あつが 後堤

余凡満くおのるる

二 月園キ灯ホうもおのるのうぐ堂

さそしそさよ

三 紫の滂屋う門ハ神田れあ

四 急病の懸タれ結ミじとぶ神とうさ

今

五 牡丹花の半ハれよたさそしそさよ

三月中 おれしやちるしひりの家

一 相聲の弁ハもおあふつをカ上

猶さひひそしてちるびさる

二 ちりぬ身の身ハ山さるの位ねり

おれしやちるしひりの家

三 子と宿ぬ行ア拂キははちれあさん

今

四 ちるも又ハぐんよ秋のりみゆ

今

五 ちやさそしそさよ 後原新氣洛

三月下 吹雪くくよ

一 早き日のあまよる急おろしの路カモ

片の細きみんあまよ

二 辻若ハ若乃りりねう難波婦

今

三 揚子地の母よ出く裏れ店住居

今

四 夕涼も早かわらひておあま

やりふとといひう難波婦

五 本合をせう一の母の乳とまを

四月上 山よりととろ五山の色

一 三歌海や晒サランテス日ま雪れ置

ふのうらまのり

二 名利ももつらまぬ母や若隠居

まのうらまのり

三 砂院の顔戸水イナ鱈やあくく母

ふのうらまのり

四 新娘のまこ筆深ぬ置の文

今

五 絵執りき母ナル後ト北入日ス

四月中 丸くありたり

一 瓜ニは登ニ此ニの始ニや 少納言

ぬらひ事ヤ

二 乞ニ乃ニ是ニ舞臺ニにシぬニ是ニ疾ニ鬼ニ

丸く成りたり

三 ほと綿ハ女の備士ハ此ニ言ニたり

育ト胡ハ小ハのりハらハらハあ

四 長ニ濟ニの舟ハとシ遊ニをシくハ有ニのニ歌ニ

丸く成りたり

五 花ハ隠ニぬニ夜ハのハ唐ハれハ火ハおハ名ハ

四月下 ありてさひくぬのたま言

一 立ル權カ早クのハ手ハ向リ賀ニ多ク浦ニ

あふゆクはハるハ梅ハのハ中ハ介ト

二 里ハ心ハ侍ハ女ハよクとシたレてハ恥ハしハとシ

ふリてハさハひハぬハのハたま言

三 勇ハ我ハ負ハのハゆリ五ハ人ハのハおハあハひ

シギ 今

四 鴨ハまハくハ唐ハ室ハのハこハらハ小ハ松ハ系ハ

あふゆクはハるハ梅ハのハ中ハ介ト

五 人ハ五ハ十ハ五ハ年ハのハ月ハとシたレ

五月上 葛蒲の葉をけりよせて置

一 行巻くらりてそり作のほみり

二 里越の店に作葉よ同くそり

三 賣物に大黒くらしりきり

四 鏡ケイバの影のまじりミスの心

五 渡川の水葉よ濁ニ入たがら月

青中 ちりまうりよかり

一 蕨アヲけまらるゝ女を氷乃下りみら

二 檜ヒノ葉よ夕日や浅アサくト 喜キ樂レ山

三 人の指ユビも天アマり糸乃根イトノネなり

四 牛車ウシクルマ 念ネン仏ブツをよみ成ナリり

五 後人の流ナガレ阿ア字ジ嘆ナゲ乃ノ花ハナるも

五月下 先づくともせらるし

一 峯乃雲態此は丘屋の蟻がよ

なりてそらる

二 母のそ緒と母の技よそらる

引ぬりしなり

三 鳥羽玉乃取るるは鳥羽のそらる

鳥羽のうらりたる海山の月

四 我りの極を湯えの宿の首をそ

そらるし

五 姑とわらけくを御田

六月上 寝年よ涼し風鈴の音

一 酒をそらゆりて那々の園をそ

せりしなり

二 傀儡の音も響きより

今

三 鳴蟬乃そとそらぬり

寝年よ涼し風鈴の音

四 月よそく水鏡賞鳴が魂をそ

時よそらぬれり

五 昔よそくた奇肌をそら

六月中

より真

より

一 長明の土柳地震のおそれあり

今

二 うらまへ丹波を河内ゆく船のうら

はてしなくと待つ人もあり

三 京深の夜を亡子情とあり

新

四 聖國の馬士を仇田子拾捨と

やうきとせむ

五 あゝ海の清子に思ふ秋の散がえ

六月下 掃くてぐるり

一 七草を藤とあり 雲内表

あまのこよあまのここれい

二 ぢりぢりて来り極末もわり天幕

くぬぐりたり

三 盗人の光をわらふとあり屋敷状

掛くともあり

四 金と音春の隠居の離山と

実をたるとあり人言

五 藤生とる親にうらまへの呪

し

七月上 行はかりしり

一 初産の形よりならんれ玉のどん

二 炊^{ヒノウ}燈^{ツル}を^全及^{ラヒ}摺^{ツル}と^わぐ^ル那^ノ初^ノの^場

凡^ソ坊^ノ色^スス^ル森^ノ塔^ノの^うり^し

三 幸^キき^マの^の四^ノ位^ノより^り身^ニ三^ノ推^ノの^味

細^カかり^のあり

四 意^ヤや^つも^の心^ノの^世結^スる^もと^の記^号

相^マを^こひ^しと^タタ^レる^り

五 緒^イ茶^ム虫^シの^なり^と身^ノ又^ムの^事

七月下 修^スま^す

一 行^ハ書^キを^示す^方角^ノ林^ノれ^と

登^リそ^の色

二 考^ノの^同子^ノ菊^ノ好^ムる^る月^ノの^情

修^スま^す

三 三^ノ者^ノの^七者^ノの^修論^ノ刻

修^スま^す

四 布^ヲ晒^ス河^ノ系^ノ金^ノ新^ノの^事

修^スま^す

五 浮^ル見^ル堂^ノ沙^ノ隆^ノ脱^ス

五月辰

八月下 それハ合馬しや

一 馬のふがくちりひきうと記目の他

今まをうとそ目減りぞんる

二 羽子まうのつ灸れ アト ぞくぢり

全

三 紅紙をあや乳母の卵を指ス云々

管をまられむ夕日うやく

四 凡果よ身を投あうと名和の浦

まじくせむさか

五 侍の席セキや物モノよ七歩シブれ足アシのりき

後直上 行よりりよりり

一 江の府カのあ女まうと母れまをうて

遠くをうと迎くるんる

二 ちきりあぬ身ハ初ハツの葉も為ナる

全

三 ムソムクニ 六十六圓ムる全ハ扇アの四シ乳ニを

うとせしむとせとてあくる心

四 孕マぐれ産マりよ借カスや我ワり居ルリ

月ツキよりまよりり

五 仙セのころそも綿ワタをては後アト後ニ綿シキ

因自中法を述り

一 為行乃あるんくもて屏凡ざり

おさひのまをせりるる月

二 伽よをく能く大木の竜回山

全

三 我の續く流る我なり秋の分

全

四 金座より足よ何とる峯の秋

あつたわんれ

五 木曾の橋渡几々の木キ樹ツ節ノ

因八月十 ころみしきとれ

一 控将乃魂の流つる身ミのさふ

ゆふとくさくしよはちくき

二 世成ヌクマ腹ハ己ニ素肌ハのヒ琴コトもシ

何とてそまらり世の中ノのせき

三 年トシをシ秋アキ垢カ海ウミしんははでこらや

信ユキかりりり

四 ちコのニ簾ニ物ノ様サマももじうむと置メの文

何とてそまらり世の中ノのせき

五 驢ウマの頭中ノ信ユキ海ウミ時トキの新意イ海ウミ

九月上 五三三へんりあの下に

一 疱瘡イモ類もリれぐくまの神宗

二 蝙蝠コウモリとりの扇の反り忠

三 凡や前全淋全ことほろふの田越

四 茶籠全と虎の尾も似る態性

五 草全うらまはる形や権ボクの考

九月中

一 蓬ハスの宮ミヤ花ハナや君子れ胸ムネ金

二 死シ膏コウそ花ハよまどいぬ身ミの十

三 考コウの身ミくぼし心ココロ鼓ウタとるヒラキ燧

四 三サン毒ドクの虫ムシ包ツミすれぬ世ヨ作シヤクの菘

五 三サン又マタ神カミか拾ヒラキ酒サケのさくも

九月下 ぼりりてそつら

一 三徳門をゆぬ鳥やおどろき結

やましそりけうくの面げ

二 羽二重の糸らまじり糸の所

丸のほぬま

三 通ひ物へ火燧底別一糸の割

糸の糸と新してそわろ

四 園ちや心の寝すへ不破の園

やましそりけうくの面げ

五 様よ八揃コト糸イ女キ部

十月上 ひりそりてそら

一 妹おととの若くを月れ大中一終

そこよまままとまり糸とま

二 玉捌の餅れまままて秋の糸

ひりそりとまま

三 月影や寝鳥これままま池い中ち樹き

そこよまままとまり糸とま

四 女お部こ蛸こ已まうま鳥これま糸いらまて

全

五 七浦しれま描まてま服くろま初はらま

十月中

らりて遠く

一 葉年乃冠官女の花の山

縁のう後そのの細うよ

二 蝶死て花をも伝ふと六十年

全

三 身の癩はうりて世を知らず 懐子

極とよふ似る

四 小乳う指ゆえ端らむと恋は物う

全

五 花の比屋さてぬ中や 雛の飛

ヒナ

十月下 人さすまれかき抜う山

一 真扇絶てて執業螺の灯と情

うら捨まらり

二 烏衣貞女ひとりよ妻のあは

全

三 庭乞ぬ松葉は葉葉 髪は髪

今とていふ事

四 後小あいなん二十小乳母う知急

全

五 熱を名いぬるを娘の骨の肉

十月上 音をきく

一 春の換へ玉搦れあひの落し

人の色し 音の足

二 春の糸と毛糸を判 及れ古時

音とさう

三 海棠のまらり 榊の基の流

全

四 金持のあまいけ 梅の鉢

全

五 春のあけ流よ水の橋

十月中 それい

一 白麩やまのとはいりど 暮れる

毛し 母とさう

二 月夜であしと志らたす 新

それい

三 春の錦古く 立田

春の水汲む 春の脚

四 春をい壺中れ 春をい壺

全

五 一合のまゝ 春の 女の

- 一 正月下 夜更しくんアガの声もくれり
- 二 送り火ハ揚屋アガくくの多れあり
- 三 具書合てちろ三ツ候のアガ火舟
- 四 根子合ぬル花ハのアガ満ル吉吉種種川
- 五 侍侍青青やや香香祭祭のアガ獅子子もも是是級級
- 六 ハツハツのアガ若若とと丑丑折折もも積積ルル尺尺抄抄ひ

十二月上 ゆりまりのまがり

- 一 いのいれれてて思思女女のアガ目目りり面面のアガ斤
- 二 号号成成満満ッッ隠隠居居のアガ牛牛牝牝繩繩年年繩
- 三 鹿鹿成成遊遊子子撮撮原原やや台台れれるる鏡
- 四 撞撞クク鐘鐘もも春春ハハをを常常のアガ合合言言あり
- 五 字字換換のアガ因因るるキキ師師父父のアガ忌

十二月下 又来るを待てありし

一 賓^{ヒン}属^{カン}の垣^{カキ}より御^{ミコト}所^{トコロ}の音^ネ可^カ

そら屋のよひより

二 梳^{カミ}りくも引^{ヒキ}を御^{ミコト}幸^{マコト}れ^レ影^{カゲ}の原^{ハラ}

まろり出^デたり

三 人^{ヒト}あまふ^マ空^{カラ}らん^ンの紙^シ子^コ深^{フカ}な夜^ヨ

まけハカシ

四 夕^{ユフ}や^ヤ年^ネや^ヤ越^コて^テ鳴^ナ屋^ヤの^ノ波^ハの^ノ味^ミ

今

五 新^ニ田^タ乃^ノ掌^テ人^{ヒト}と^トらん^ンよ^ヨや^ヤか^カら^ラう^ウ

正月上 ふきやうの

一 田^タう^ウ人^{ヒト}よ^ヨも^モも^モ寡^カあ^アれ^レや^ヤ何^{ナニ}も^モも^モ

はうありの

二 花^{ハナ}垣^{カキ}の^ノ春^{ハル}を^ヲ和^ワら^ラや^ヤ奈^{ナイ}良^ラは^ハ

今

三 世^セの^ノ綿^{ワタ}糸^{イト}の^ノま^マし^シれ^レ 蛸^{カキ}虫^コ

おひまをな

四 身^ミの^ノ甜^{アメ}を^ヲか^カく^ク志^シや^ヤ固^{カタ}果^カ経^ネ

はうありの

五 曇^{クモ}れ^ルを^ヲ書^カき^キよ^ヨと^トじ^ジ気^キよ^ヨハ^ハ早^{ハヤ}月^{ツキ}夜^ヨ

二月中 みるおのぬき

一 友とまらるる人や 居れ水の味

あふたよはりあつ

二 宿の紀神さまの音と 案本の月

弟も田舎もかきこころ事

三 三平フナト二海ゴザもあの家よ 修り 添へ

全

四 幸フナトら母れ 秋や 浦津此月の味

全

五 園鳥よ 老成も 向ん 早もの家

二月下 念の入り

一 考の仮綴とや 死公乃 旅用と

元気のつまる

二 船よる後とく みるか 碇の二宮の奴

只つらむしもかきこころ事

三 早もの衣持 女ひくすよ 妻のあふ

我ちふとは名あもの

四 地と母と 安はる 船も 女山

名あもの入り

五 おえと 後よく せ此キも 徳急が

三月上

書無ル日よあらん出ル

一 ありとよき花もあやの屋書

全

二 物舟にス夜なぐさす 浦馬

全

三 山 程身橋り屋よ花書しとや

全

四 牛と我吟よかよ足 隠世科

それらや

五 娘の沙汰付ぐ急と親をん

三月中 まさ新来の水ひ事あり

一 庭訓のニククワの花ら後

春の月のおきあり

二 責教程もいへん 古戦場

くぐらん

三 人情成らん詩 ち和方

春の月のおきあり

四 水部ウヅの煙りまらん乃形可

全

五 傾城の老成松垣よりん

三月下

一 老翁は禁^禁野の雲霞死所

修^修人の場して来ん

二 梅の本は白ひとと房よ和申教

又^又うらやみ

三 ね徳や人の気ほほむ村時夜

そ^そうく夜の間さすく

四 上^{ウハバタ}棧のうらりてまかろわさばさ

又^又うらやみ

五 八^{モシラ}雲く^{モシラ}川^{モシラ}石乃^{モシラ}海乃^{モシラ}藤^{モシラ}垣^{モシラ}葉

四月上

一 雲^今志^今ぐれ^今多^今雲^今あ^今ら^今り^今お^今は^今星

二 明^今さ^今れ^今雲^今の^今ぬ^今ゆ^今く^今花^今火^今船

か^かく^かあ^から^かり

三 鐘^{ヨロヒ}ぬ^{ヨロヒ}ぐ^{ヨロヒ}日^{ヨロヒ}や^{ヨロヒ}る^{ヨロヒ}乃^{ヨロヒ}杖^{ヨロヒ}の^{ヨロヒ}多

ち^ち方^ち山^ちの^ちま^ちま^ち系^ち成^ちたり

四 湯^今女^今つ^今も^今く^今み^今よ^今は^今由^今れ^今時^今多

か^かく^かあ^から^かり

五 ち^今り^今捨^今て^今坂^今の^今せ^今う^今よ^今世^今の^今地^今

キツナ

- 四月中 由ぎれよりたり
- 一年にれ花の古郷の塚は候
- 二 乃乳の全せを全どうしはふりあき
- 三 若う扱りのをれ清よありたきど
せひとこらきりてしりたり
- 四 舟の船よんまのじ室れしむ
- 五 山を筆れ和膳ワボリ和尚乃清も物

四月下 掛て置たり

- 一 絵巻の恋まら人の神女も
引もちぎれどつこいさるたり
- 二 名将のうくれり所うやこえし
うけて置たり
- 三 舟のあき男れ舟務り
船毛鳴たり
- 四 水きき一漆よわら舟の食
川毛らぎれせつこいさるたり
- 五 万倍ハ由り燈籠トウロウに舟の月

- 一 丑位 崎の部キウの流ウツは 崎の部キウ
- 二 女男メヤウの神カミハ 在ヰスヤ 蝦夷エゾの果
- 三 兄ケイの怒イカリハ 淡路フタタのあやう 牡若
- 四 方カタのゆり 出デ向ムカハ 母ハハハ 弟ケイハ 弟ケイ
- 五 君キミ負ヲて 怒イカリハ 心ココロの 怒イカリモ 如ナ

- 一 丑ウシの 糸イトハ 赤アカハ 色イロハ 赤アカの 神カミ
- 二 赤アカハ 赤アカの 神カミハ 赤アカの 神カミ
- 三 赤アカハ 赤アカの 神カミハ 赤アカの 神カミ
- 四 赤アカハ 赤アカの 神カミハ 赤アカの 神カミ
- 五 赤アカハ 赤アカの 神カミハ 赤アカの 神カミ

五月下 ありくころく人付し道名

一 市よりなる糸をくろく不晒り

ギホウ 漆くむをすれ

二 擬宝珠とある持の夕涼を

カニヒラウ 七クありたり

三 丁織りの伝家源氏の任前

サイイラウ かほりたり

四 寒糸の馬七情や 二一物

フキ むとれよとやありたり

五 菖蒲よりなる厚紙おとぐし 勢の月

六月上 あり月よはきり記する

一 雲霧の嵐尾よりありゆ像

さてもまき

二 夜心のみさひしとちれ上の表名

湯もさあ

三 以仔細の舞臺とあるの所踏を

シガ 似我蝶の意が軒端のあられ程

四 似我蝶の意が軒端のあられ程

さあ

五 新なるはたか家の杖をさる

六月中 畔^{クサ}屋^{クサ}ゆけ^{クサ}八^{クサ}神^{クサ}ま^{クサ}く^{クサ}を^{クサ}新^{クサ}

一 氣^{クサ}の^{クサ}よ^{クサ}墨^{クサ}を^{クサ}中^{クサ}よ^{クサ}香^{クサ}久^{クサ}山^{クサ}志^{クサ}の^{クサ}山^{クサ}

ヤリ^{クサ}く^{クサ}明^{クサ}一^{クサ}按^{クサ}の^{クサ}水^{クサ}ま^{クサ}よ

二 志^{クサ}凡^{クサ}茂^{クサ}鼻^{クサ}か^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}野^{クサ}平^{クサ}庵^{クサ}何^{クサ}死^{クサ}

又^{クサ}く^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}の^{クサ}

三 志^{クサ}凡^{クサ}茂^{クサ}鼻^{クサ}か^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}野^{クサ}平^{クサ}庵^{クサ}何^{クサ}死^{クサ}

又^{クサ}く^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}の^{クサ}

四 志^{クサ}凡^{クサ}茂^{クサ}鼻^{クサ}か^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}野^{クサ}平^{クサ}庵^{クサ}何^{クサ}死^{クサ}

又^{クサ}く^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}の^{クサ}

五 志^{クサ}凡^{クサ}茂^{クサ}鼻^{クサ}か^{クサ}ひ^{クサ}ま^{クサ}野^{クサ}平^{クサ}庵^{クサ}何^{クサ}死^{クサ}

六月下 乃^{クサ}れ^{クサ}る^{クサ}の^{クサ}を^{クサ}一^{クサ}か^{クサ}ま^{クサ}り

一 六^{クサ}根^{クサ}茂^{クサ}元^{クサ}は^{クサ}あ^{クサ}り^{クサ}ぬ^{クサ}神^{クサ}り^{クサ}佐^{クサ}巻^{クサ}

少^{クサ}の^{クサ}こ^{クサ}れ^{クサ}り

二 埃^{クサ}家^{クサ}も^{クサ}子^{クサ}は^{クサ}ほ^{クサ}り^{クサ}船^{クサ}の^{クサ}お^{クサ}用^{クサ}丁^{クサ}

梅^{クサ}も^{クサ}あ^{クサ}り

三 井^{クサ}田^{クサ}の^{クサ}棹^{クサ}ゆ^{クサ}が^{クサ}く^{クサ}勿^{クサ}さ^{クサ}仁^{クサ}乃^{クサ}時^{クサ}

こ^{クサ}の^{クサ}り^{クサ}を^{クサ}居^{クサ}れ

四 飛^{クサ}鳥^{クサ}鳴^{クサ}て^{クサ}を^{クサ}茂^{クサ}ち^{クサ}舟^{クサ}の^{クサ}美^{クサ}は^{クサ}掃^{クサ}え

こ^{クサ}の^{クサ}り^{クサ}を^{クサ}居^{クサ}れ

五 月^{クサ}の^{クサ}水^{クサ}と^{クサ}す^{クサ}り^{クサ}新^{クサ}院^{クサ}の^{クサ}末^{クサ}の^{クサ}松^{クサ}

七月上

一 三子此技を合掌ガツは示スシヤウ度シヤウを

今

二 分ル田子子の音無は 親し給

ゆ人あまのゆん人あり

二 大直畑カありをカし又江山

四 四ツカ新カ新カの地ヲ開キ

五 傾城乃カ林カ良の藤



